

Case Study

支部ケース・スタディ

北陸支部

実証よりも実装にこだわる… 循環型ビジネスサイクルを構築

射水ケーブルネットワーク(株)

取締役会長

牛塚 松男



「顧客が求めるもの」から「地域が求めるもの」へ

射水ケーブルネットワーク(株)は、富山県の中央部に位置し富山湾に面した射水市と高岡市牧野地区をエリアとしています。エリア世帯数は約4万、テレビ接続率は73%、ネットの加入率は37.5%、固定電話は34%です。

5年前、企業ビジョンとして「地域貢献を強く意識し、『有線事業』と『無線事業』の展開に加え、地域活性化の一翼を担う」を掲げました。以来、無線事業を進めることで「地域が求める」課題の解決に取り組んできました。きっかけは、令和元年に射水市が「IoT利活用検討会議」を発足させたこと。そして、当社と共同で事業を進めることになりました。そこで悩んだのが「実証実験をするために予算を確保し、その実績を精査し、実用化するための予算を確保し…。これでは2年半もかかってしまう」というスピード感のなさ。このため、実証実験は当社が全て負担し事業をスタート、そしてこの会議で効果を検証、成果のあったものを予算化し次年度には実装させるというサイクルを作りました。

この結果、当初3件、センサー数21個だったのが、今年度には16の案件228個のセンサー数になりました。実証における経費は「先行投資」、これを毎年繰り返すことで循環型のビジネスが成立しています。



積雪計測(10箇所)



消雪装置監視(7箇所)



除雪車位置情報(12台)



排水路 水位・雨量計測(7箇所)



排水路 堆積物監視(4箇所)



ため池 堆積物監視(3箇所)



IoT事例

これまでの取組み

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
案件数	3件	6件	11件	16件
センサー数	21個	56個	80個	228個
分野	<ul style="list-style-type: none"> 積雪深 除雪車履歴 消雪装置監視 	<ul style="list-style-type: none"> 積雪深 除雪車履歴 消雪装置監視 水位・雨量計測 堆積物監視 ため池監視 	<ul style="list-style-type: none"> 積雪深 除雪車履歴 消雪装置監視 水位・雨量計測 堆積物監視 ため池監視 温度 湿度 CO2監視 園児睡眠監視 海洋環境監視 イノシシ監視 アンダーパス監視 	<ul style="list-style-type: none"> 積雪深 除雪車履歴 消雪装置監視 水位・雨量計測 堆積物監視 ため池監視 温度 湿度 CO2監視 園児睡眠監視 海洋環境監視 イノシシ監視 アンダーパス監視

設置センサー数の推移

防災分野から産業分野へ

令和3年度からは、産業分野に領域を拡げました。

中でも、射水市の主要産業である漁業の課題解決に取り組みました。

というのは、富山湾に設置されていたモニタリングシステムが、老朽化を理由に更新されなくなりました。何とかならないかという相談があり、今年春に2キロ沖合の定置網にICTブイを設置しています。GPS、風速計、水温計、流速計、水深計の5つのデータを陸上のスマホで見ることができます。このデータは、出漁の判断など非常に重要なものです。定置網だけでなく、地元の白えび漁やホタルイカ漁の漁師さんなど漁協加盟の150名ほどの漁師さんに利用いただき好評を得ています。

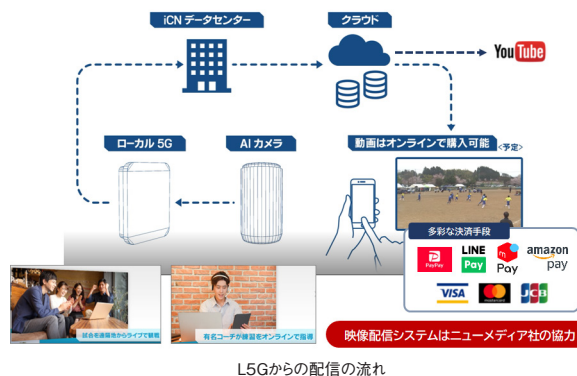
来年3月には実用化される予定です。これは、射水市に買い上げていただき、通信費は漁協から毎月いただきますが、このブイなどに関しては、NTT西日本、NTTドコモさんと協業しており、これが成功のカギでした。私たちが持っている部分を、高い技術力によって補っていただきました。



信頼が、新たな挑戦の機会を与えてくれる

令和3年、射水市にDX推進本部が設けられ、当社が唯一部外者として参画しています。その中で、地域のBIGプロジェクト「射水市フットボールセンター」が始動しました。ところが、あてにしていた「内閣府地方創生拠点整備交付金」の獲得に動いたもののあえなく落選。この約8億円の交付金がないと全額市費を投入しなければなりません。射水市から「デジタル技術を活かしたプランがないか」との相談を受け提案したのが「ローカル5G」「AIカメラ」「映像配信プラットフォーム」を装備したフットボールセンターです。

事例のない時代に合ったフットボールセンターということで、無事採用になりました。



得た知見を全国にヨコ展開

このように、数年かけて行政と向き合い「BtoG」事業を進めてきました。

センサーの選択を間違いデータが取得できなかつたり、漁業関係者から風速計が動いていないとの指摘を受けたりなど、当社のスタッフはいろいろな苦労を重ねてきました。

この知見を生かし、全国のケーブル局にヨコ展開できないか…ということで、今年の「ケーブルコンベンション2022」の技術ショーで業界ダッシュボードを発表しました。

これはZTVとの協働での提案です。

IoTに取り組もうと考えた時、同じような壁にぶつかります。「センサーをどう選べばいいのかわ」「プラットフォームやダッシュボードはどう構築するのか」「どう設置すればいいのかわ」など。でも、「排水路」「ため池」などの水量や雨量、「アンダーパス」「イノシシ」などなど、行政はほぼ同じ悩みを抱えています。

いかに安価に、ケーブル局が一定の利益を上げる仕組みとして行政に提案できるかを希求しました。

ケーブルテレビ事業者のIoT導入ハードルを低減！
IoTダッシュボードの特長
(提供主体：射水ケーブルネットワーク、ZTV)

IoTダッシュボード
ケーブルテレビ事業者のIoT導入・運用の業務負担を劇的に軽減します

【提供機能】

- ✓ダッシュボード・プラットフォーム提供
- ✓案件毎のセンサー・端末例掲載
- ✓IoT導入一気通貫支援
- ✓ダッシュボードテンプレ掲載

一般的なIoT

- 手配とコスト、ノウハウが…
- どこから手をつければいいのか
- 参考になる事例を知りたい

ケーブルテレビ連盟 正会員限定で

ゼロから開発する必要のない実績で、簡単に、利益がとれるようなプラットフォームとダッシュボードをご提案します。

安価に利用できます! **月額1万円**

ケーブルテレビ事業者向けに構築
個別相談にも応じます

事例の情報を掲載!

類似のユースケースであれば、先行事例をそのまま採用することが最速

IoTダッシュボードに推奨端末・センサーを掲載します

構築コストが高い
導入にノウハウ必要

日本ケーブルテレビ連盟 正会員限定です

「BtoG」に取り組む過程の入口は、「IoT事業」だと考えています。

地域への愛着と地域ニーズへの感度は、大手キャリアなどよりケーブルテレビ局が上回っています。それだけに、「地域が何を求めているのか」を追求することで課題を見つけ、解決することで信頼を得、領域を拡げていく…、そんなサイクルを作り上げていきたいと考えています。